

# ザンビア通信 第4号



## 第2章～ザンビアの空～

※庭のマンゴーの木と空♪



※庭のマンゴーの木



### 【マンゴーの季節】



マンゴーをリクエストすると、1度に5～6個持ってきてくれます。

「マンゴー食べたいな♪」という、庭のマンゴーの木からマンゴーをとってきます。

友人隊員作。マンゴーアレルギーの症状が出てしまったため、食べられなくなったマンゴーを近くに住む友人にあげたところ、隊員仲間の誕生日に、マンゴーをのせたチーズケーキを作ってくれました。お店で買うよりずっと美味しかったです。

ザンビアでは、10月上旬から2月上旬頃まで、たくさんのマンゴーが街にあふれます。マンゴーの木があちこちにあり、私の住む家の庭にも、学校にも、いくつものマンゴーの木があります。庭のマンゴーは、近所のみんなで食べるため、つつい食べ過ぎてしまいます。もちろん無料です。

もらったマンゴーを毎日食べ続けた結果、ついに、口や手など、身体の数力所に湿疹が…。マンゴーが「ウルシ科」の植物であることは知っていたため、嫌な予感が…。また、インターネットで調べると、食物アレルギーの中にもいくつか種類があり、そのうちのひとつではないかと思いました。

日本ではマンゴーは高価な物だと話していたため、近所の人達の好意は続き、アレルギー症状が出てからも、何度もマンゴーをもらいました。結局、私はしばらくマンゴーを諦め、もらうマンゴーは友人隊員や職場の同僚にあげました。この時期、ザンビアではマンゴーは1つ10円～20円、安い時は4つで10円のものも見かけました。マンゴー好きにはたまらない季節です！でも、来年は食べ過ぎないように気を付けます。

## 【カサンカのコウモリ】

毎年10月中旬から12月上旬、ザンビア・カサンカ国立公園に1000万匹ものコウモリが、集まります。カサンカ国立公園は、ザンビア国内でも、とても小さな国立公園の一つですが、この時期のコウモリの大移動は圧巻だとの話を聞き、土日の休みを利用して、コウモリの大移動を見に行きました。これは、夜行性のコウモリが夕方薄暗くなった頃、餌を食べるため、近くの森に移動するとのことでした。

2016年9月11日「NHK ダーウィンが来た！」でも紹介されています。

(<http://cgi2.nhk.or.jp/darwin/broadcasting/detail.cgi?sp=p471>)

日が暮れ始めた頃、遠くの方からコウモリが飛び始めました。最初は1羽、2羽。あっという間に、頭上の空はコウモリに覆われました。夕日とコウモリの大移動、日本では見られない圧巻の景色でした。



私が撮った写真。圧巻の景色も、素人の腕と、小さなデジカメでは全然伝えられません。でもこの黒いものが、全てコウモリです。

「ダーウィンが来た！」のHPで紹介されていた写真。プロのカメラマンが撮ったもの。さすがによく撮れています。

このカサンカ国立公園の近くの街に赴任している隊員が、ザンビア隊員全体に声をかけてくれ、土日にコウモリ見学ツアーを企画してくれました。今回は約25名が参加しました。





## 【TEVETA（テベタ）という国家試験】

ザンビアでは、年に数回 TEVETA（テベタ）という国家試験が実施されています。（現在の私の英語力で理解している内容のため、誤りがあった場合は、改めて訂正させていただきます。）

受験する難易度によって、受験資格も異なり、ザンビアのプライマリー（小学校）、セカンダリー（中学校、高等学校）の各段階の卒業資格を持っていると、より難易度の高い資格の受験が認められています。プライマリー（小学校）を卒業できていない場合は、一番初級の資格を受験し、合格後に次のレベルの受験資格を受けることができるようです。（時間とお金をかけられるのであれば、小学校卒業の資格がなくても受験できます。）

この TEVETA の受験料は、決して安くはありません。難易度が上がると受験料も上がるようで、受験生に聞いたところ、一つのレベル（級）を受験するために、日本円で 6000 円から 10000 円もかかるようです。

もともと失業率も高く、仕事を見つけるのが難しい国で、この TEVETA という国家資格を取得することが、ザンビア国内でどの程度の価値があることなのか、まだ私自身が理解できていません。例えば、道ばたでミシンを踏んでいるテーラーさんが、この国家資格を持っているとは思えないからです。

私が配属されているのは、国立の職業訓練校のため、この TEVETA（国家試験）を受験する生徒がおり、その試験が学校で行われました。

電気科の試験風景  
（筆記試験）



試験監督がない教室もあり、驚きました。職員はなぜか外で談笑中。おそらく、試験監督にあたっている人もこの中に、いるのではないかと思います。生徒同士も言葉を交わしており、国家試験を実施しているとは思えないような、試験風景でした。



## 【服飾コース生徒の受験風景】

私の担当する服飾コースの生徒は、全部で 15 人。15 人中、今回の国家試験に挑戦したのは、7 名でした。なぜか、自分たちで作った、白衣を着て、服作りの実技試験を行っていました。黒板には、1 級（初級）試験終了 11 時、2 級（中級）試験終了 15 時と書いてありましたが、みんな夕方 17 時頃まで作っていました。



おおらかと捉えるべきか、いい加減と捉えるべきか、初めての国家試験の様子に、ただただ、驚くばかりでした。

服飾コースの生徒は、食品コースの生徒と一緒に筆記試験を受けていました。この教室には、試験監督の先生がいました。

服飾コースの実技試験

日本では、試験中の様子を写真に撮ることは、不可能だと思います。まして、国家試験の受験中であれば、なおさらです。どの試験会場でも、事前に撮影許可をいただいているのですが、受験生に、写真を撮ってくれと合図をされることもあり、本当に国家試験の最中なのかと驚きました。

服飾コースの実技試験でも、受験生はお互い現地語で話しながら作品を制作していました。また、通常の授業と同じように、受験生は、使わない紙や布を床に落としていくため、部屋はどんどん汚くなり、その中で実技試験の作品を作っていました。



毎日のように、語学力不足や技術力不足を痛感しています。なるべく誤りのないよう、同僚や友人隊員に確認し、ザンビア通信に記載しているのですが、内容は、あくまで私の主観と、現在の私のザンビアについての理解であることをご了承ください。